

平成 25 年度事業報告

平成 25 年 3 月 1 日から平成 26 年 2 月 28 日までの事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員及び団体会員

級 種	平成 25 年度末	平成 24 年度末	増 減
1 級	10 社	11 社	-1 社
2 級	7 社	6 社	+1 社
3 級	19 社	19 社	0 社
4 級	31 社	31 社	0 社
5 級	74 社	73 社	+1 社
計	141 社	140 社	+1 社

1.2 個人会員

種 別	平成 25 年度末	平成 24 年度末	増 減
正会員	1194 名	1204 名	-10 名
(内・名誉会員)	11 名	12 名	-1 名
(内・永年会員)	41 名	45 名	-4 名
学生会員	96 名	71 名	+25 名
アジア海外会員	1 名	0 名	+1 名
アジア海外学生会員	0 名	0 名	0 名
計	1291 名	1275 名	+16 名

1.3 名誉会員（11名）

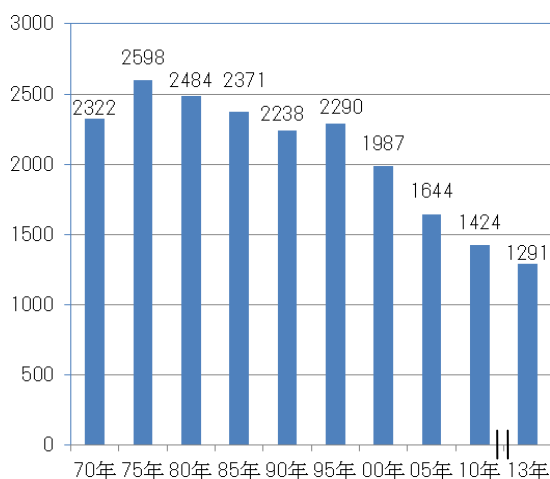
阿河 利男 池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 大場 健吉 荻野 圭三
北原 文雄 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 早野 茂夫

1.4 日本油化学会フェロー（9名）

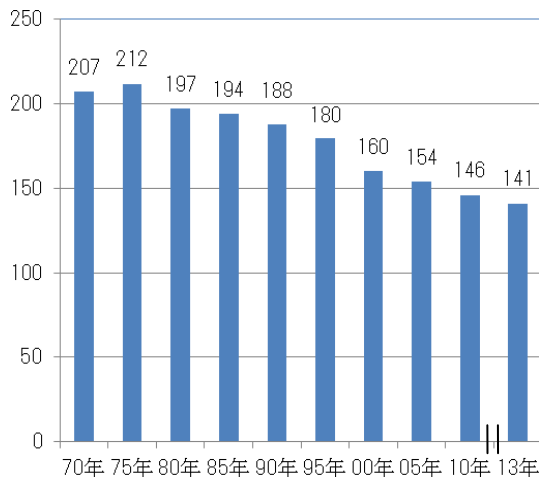
石上 裕 今栄東洋子 菊川 清見 佐藤 清隆 菅野 道廣 妹尾 学
戸谷洋一郎 師井 義清 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移（個人・法人）

個人会員数の推移



法人会員数の推移



2 会務

2.1 総会

第 59 回定時総会を、平成 25 年 4 月 30 日、油脂工業会館 9 階会議室で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて 112 名の社員の出席を得て議案を審議した。平成 24 年度事業報告及び決算案、定款の一部変更と諸規則類改定の案が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。また、25 年度役員を選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

① 日本油化学会フェローに、元九州大学大学院教授 師井 義清 氏が推戴された。

同じく本会フェローに、南京理工大学顧問教授 石上 裕 氏が推戴された。

② 日本油化学会功績賞が、本会元理事 大部 一夫 氏に贈呈された。

③ 平成 24 年度日本油化学会学会賞及び進歩賞が次の各氏に贈呈された。

・学会賞 京都工芸繊維大学工芸科学研究科 川瀬 徳三 氏

・進歩賞 奈良女子大学大学院自然科学系 吉村 倫一 氏

④ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、株式会社資生堂 関根 知子 氏に贈呈された。

同じく本会女性科学者奨励賞が、ミヨシ油脂株式会社 御器谷友美 氏に贈呈された。

つづいて、講演（演題・講師：「スクワレンとスクワランの水分散液－健康食品と化粧品への応用－」・田嶋和夫氏〔神奈川大学特別招聘教授、未来環境テクノロジー(株)取締役 CT0〕）が行われ総会に関するすべての行事が終了した。総会後の懇親会は、八重洲富士屋ホテルで開催され、50 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 24 年度決算案の承認、平成 25 年度会長、副会長及び常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任、日本油化学会フェロー、女性科学者奨励賞及び日本油化学会学会賞等の選考、平成 27 年度(第 54 回)年会開催地の決定及び実行委員長の選任等、重要案件について審議し決議した〔出席理事 延 52 名、出席監事 延 12 名〕。別に、定款第 34 条に基づく決議(書面による審議と同意)を 1 回実施し、内閣府に定期的に提出する書類(平成 26 年度事業計画書及び収支予算書等)等を承認した。

2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会を 6 回、支部長連絡会を 1 回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	3 回	役員等候補者推薦委員会	2 回
企画・部会統括委員会	4 回	学会賞等選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	功績賞等推薦委員会	2 回
規格試験法委員会(含小委員会)	10 回	学術専門委員会	1 回
編集委員会(レオサイエンス)	6 回	ACOS2014 委員会	1 回
編集委員会(JOS)	1 回	オレオサイエンスフェア委員会	1 回

運営委員会は、アジア地区の油化学の発展と本会会員増強を目指したアジア海外会員とアジア海外学生会員の設置と、議決権(代議員の選挙権、被選挙権)付与範囲の拡大について、理事会に提案した。理事会はこれを総会に付議し、承認を得た。総務委員会は、具体的な定款の変更の案、等を作成し、上記議案の総会付議につなげた。財務委員会は、平成 24 年度決算案を理事会に上程した。また平成 26 年度予算書を理事会に上程するとともに、平成 25 年度決算書(案)を作成した。

企画・部会統括委員会は、フレッシュマンセミナー、アドバンスセミナー等を企画・開催した。規格試験法委員会は『基準油脂分析試験法』の見直しや新規試験法の検討を行った。

また、各委員会は、「JOS」誌「オレオサイエンス」誌の編集・発行(Web 上公開も含む)発刊、「第 1 回アジアオレオサイエンス会議」「第 2 回オレオサイエンスフェア」の開催準備、等を行った。

3 事業報告

3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 第52回日本油化学会年会

日本油化学会関東支部の協力のもとに，宮澤陽夫実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行った。本年会も会期3日間で開催した。一般講演，受賞講演等講演の合計が197件，参加者も516名と盛況であった。オレオマテリアル部会によるシンポジウム，各専門部会によるランチョンシンポジウムを2日に分けて開催した。特別講演は，伏木亨京都大学大学院教授，及川眞一日本医科大学教授，資生堂(株)岡本亨氏により行われた。実行委員会は，第10回ヤングフェロー賞に城内文吾，平敏彰，本間太郎の3氏を選考，油脂工業会館学生奨励賞に10氏を選考し，表彰した。

会期：平成25年9月3日（火）～5日（木）

会場：東北大学川内北キャンパス

内容：①参加者総数 516名

②講演件数

・受賞講演	2件
・実行委員長講演	1件
・特別講演	3件
・市民公開講座講演	1件
・特別シンポジウム講演	4件
・シンポジウム講演	14件
・部会シンポジウム講演	9件
・一般講演（口頭発表）	96件
・一般講演（ポスター発表）	57件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	10件

③懇親会 日時：平成25年9月4日（水）18時30分～20時30分

会場：川内の杜ダイニング

参加者：214名

3.1.1.2 日本油化学会会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1)「Journal of Oleo Science」誌 第62巻 第1号～12号 総ページ数 1,096ページ

論文誌として，冊子版と電子版を発行しており，第62巻は原著論文128件を掲載した。また，ページ外で，投稿規定，入会案内等を掲載した。なお，Thomson Reuters社より，2012 Impact Factor値が公開され，1.242であった。

掲載内容	報文	111件
	ノート・速報	13件
	総説	4件

(2)「オレオサイエンス」誌 第13巻 第1号～12号 総ページ数 628ページ

特集11件及び総説3件を企画したほか，引続き「講座」や新たに「若手研究者紹介」を企画してホットでわかりやすい情報を8件掲載した。また，巻頭言，表彰，会務，学会情報，研究室紹介など会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。ページ外で，会告，目次等を，394ページ編集した。

掲載内容	特集総説・単報総説	43件
	解説・ここが知りたい	1件
	若手研究者紹介	4件

講座	4 件
研究文献抄録	75 件
国際油脂情報	182 件
その他 (巻頭言, 表彰, 研究室紹介, 学会等報告記事など)	

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、アドバンスセミナー(油脂)、アドバンスセミナー(界面)の4件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには2009年3月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用(改訂第2版)」及び「界面と界面活性剤(改訂第2版)」を使用した。参加者数は延275名であった。

若手の会委員会は、8月にサマースクールとして“エキスパートに学ぶ「乳化・分散技術の基礎から応用まで」”をテーマとした講演会を開催し、産学官の若手研究者の交流を深めた。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成24年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成25年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、油脂工業会館学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また油化学分野の科学・技術の発展に功労のあった会員として本会フェローへの推戴者の選考も実施した。第60回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業(公2)

油脂及び油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法』の改訂版(2013年版)を刊行したが、次回の改訂のために、引き続き試験法の見直し作業を開始した。また、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第11回界面活性剤評価・試験法セミナー、第13回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の普及を図った。セミナー参加者は延92名であった。

3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業(公3)

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会3回, 事業企画委員会2回
- ・東海支部 常任幹事会3回, 支部合同幹事会1回, 支部将来計画委員会1回
- ・関西支部 常任幹事会1回, 常任幹事会・幹事会合同会議3回

[支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延12回開催し、参加者数は延726名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延47名であった。

- | | | | | |
|-------|------|----|------|------|
| ・関東支部 | 開催回数 | 3回 | 参加者数 | 175名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 4回 | 参加者数 | 219名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 5回 | 参加者数 | 332名 |

このうち、(一財)油脂工業会館共催の地区講演会は、7月に和歌山市(関西支部)、8月に弘前市(関東支部)、11月に神戸市(関西支部)、鈴鹿市(東海支部)の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。

3.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

学術専門分野の活性化については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会及び食品油脂機能構造部会が、それぞれの専門分野を深耕するとともに、マスターズクラブが学際的・分野横断的な視点も加え活動した。講演会、セミナー等の行事は、延27回開催し、参加者数は延1,102名を数えた。

オレオマテリアル部会は、関東地区（テーマ名：「親水性ゲル化剤が切り開くオレオマテリアルの新展開」）と関西地区（テーマ名：「天然物の恵みを有効利用するオレオマテリアル創製」）でそれぞれ講演会を開催した。界面科学部会は、関東、東海、関西、九州の各地区セミナー・講演会を開催した。特に関東の秋季セミナーは開催60回を数えるに至り、2日間で9題の講演を行い、食品、医薬、化粧品に関する知識の交流と懇親を深めた。洗浄・洗剤部会は、メンバーズセミナー（メンバー以外も参加可）「光化学反応とその繊維加工プロセスへの利用」、第45回洗浄に関するシンポジウムを開催した。オレオライフサイエンス部会は、油脂産業技術部会と共同で年会ランチョンシンポジウムを開催した。油脂産業技術部会は、部会セミナー「食品産業における乳の利用」、部会ワークショップ「食品における乳化技術」を開催した。オレオナノサイエンス部会は、「生物に学ぶ生体界面科学」と題したシンポジウムを開催した。食品油脂機能構造部会は、部会セミナー「油脂含有食品の構造と品質制御：シリーズ3-食品素材由来の脂肪球の科学と最近のトレンド」を開催した。マスターズクラブは、関東セミナー、東海講演会、関西見学会・講演会を開催した。さらに「はばたけ！オレオサイエンス」第2集を刊行した。

各支部及び各専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換等を行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。